

加古川市スポーツ推進計画 中間評価報告書

加古川市

令和6年3月

【目次】

1 はじめに	
(1) 加古川市スポーツ推進計画について-----	1 ページ
(2) 計画の位置づけ-----	1 ページ
(3) 中間評価の趣旨-----	1 ページ
2 市民調査について	
(1) 調査概要-----	2 ページ
(2) 回答概要-----	2 ページ～4 ページ
3 集計結果と中間評価報告	
第3章 基本理念・基本方針・施策	
1 スポーツ参画人口の拡大	
(1) 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進-----	5 ページ
(2) ライフステージに応じたスポーツの推進-----	5 ページ～6 ページ
(3) スポーツに関心のない人へのはたらきかけ-----	6 ページ
(4) 競技スポーツの推進-----	6 ページ
2 スポーツを通じた共生社会の実現	
(1) 障がい者スポーツの振興-----	7 ページ～8 ページ
(2) 健康・体力づくりの推進-----	8 ページ
(3) スポーツを通じた地域活性化-----	8 ページ
3 スポーツ環境の充実	
(1) 身近に利用できる「場所」の確保-----	9 ページ
(2) 観戦スポーツの推進-----	9 ページ
(3) スポーツボランティアや指導者の発掘と養成-----	10 ページ
(4) スポーツについての情報発信-----	10 ページ～11 ページ
(5) 総合型地域スポーツクラブの充実-----	11 ページ
第4章 計画の実現に向けて-----	12 ページ

1 はじめに

(1) 加古川市スポーツ推進計画について

本市では、平成 30 年 3 月に策定した「加古川市スポーツ推進計画」に基づき、平成 30 年度から令和 9 年度までの 10 年間を推進期間として位置づけ、『市民だれもがスポーツに親しみ、つながる共生社会の実現』を基本理念に『いつまでも住み続けたい ウェルネス都市 加古川』の実現に向けた取組を進めています。

(2) 計画の位置づけ

「加古川市スポーツ推進計画」は、「スポーツ基本法」第 10 条第 1 項に基づく「地方スポーツ推進計画」にあたり、「スポーツ基本計画」や「兵庫県スポーツ推進計画」を踏まえて策定する計画です。本計画は、「加古川市総合計画」において掲げられている将来の都市像を実現するため、健康・体力づくり、食育、子育て、障がい者、高齢者等、身体活動やスポーツに関連する様々な計画との整合性を保ちながら、加古川市のスポーツ施策を総合的に推進します。

(3) 中間評価の趣旨

本計画は平成 30 年度（2018 年度）から令和 9 年度（2027 年度）までの 10 年間を推進計画期間としています。策定時から 5 年後を目途に「スポーツ実態調査」を実施して、市民の意見等の把握を行い、取組内容を点検・評価をします。その結果を踏まえるとともに、国の動向や社会情勢の変化などへの対応が必要となった場合は、適宜見直すこととしています。

計画の中間年度となる令和 4 年度（2022 年度）に市民調査を実施し、中間評価を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、スポーツの実施率などの正確な数値が測れないと考え、延期することとなりました。そして、令和 5 年度（2023 年度）に実施した市民調査の結果やそれまでの取組状況を総括し中間評価を行うことで、『数値目標』の達成に向け、今後の社会情勢の変化やスポーツを取り巻く環境の変化などを踏まえ、後期の取り組みの方向性を検討します。

平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
加古川市スポーツ推進計画									
					中間 評価				最終 評価

2 市民調査について

(1) 調査概要

「加古川市スポーツ推進計画」に掲げている数値の評価を行うとともに、市民のスポーツに対する意識や日頃のスポーツへの関わり方の傾向等を把握するため、「令和5年度 加古川市スポーツ推進に関する市民調査」を以下のとおり実施しました。

①調査対象：住民基本台帳に記録されている20歳以上の市民1,000人

②調査方法：郵送により調査票を配布

※回答方法は、調査票の返信、またはオンラインによる回答

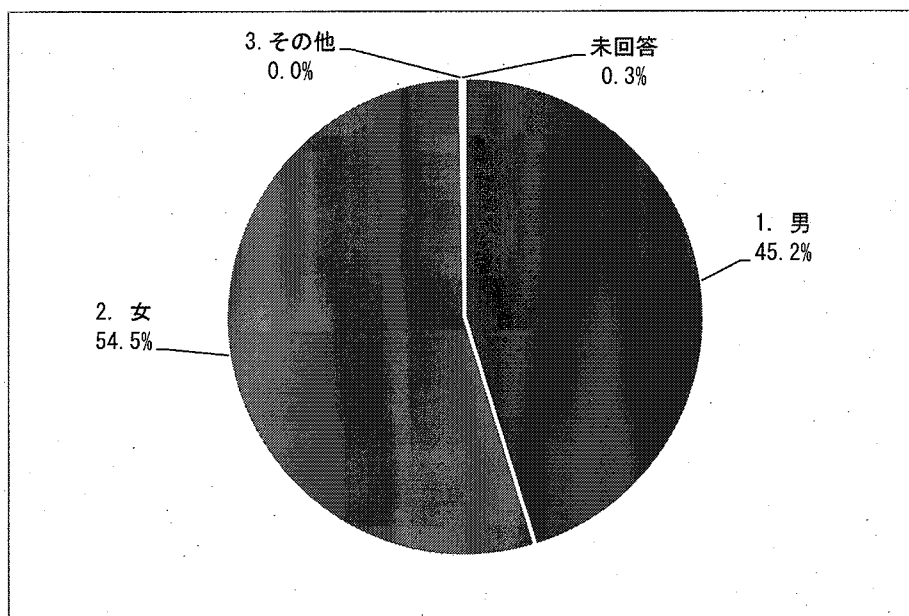
③調査期間：令和5年7月7日（金）から8月10日（木）

(2) 回答概要

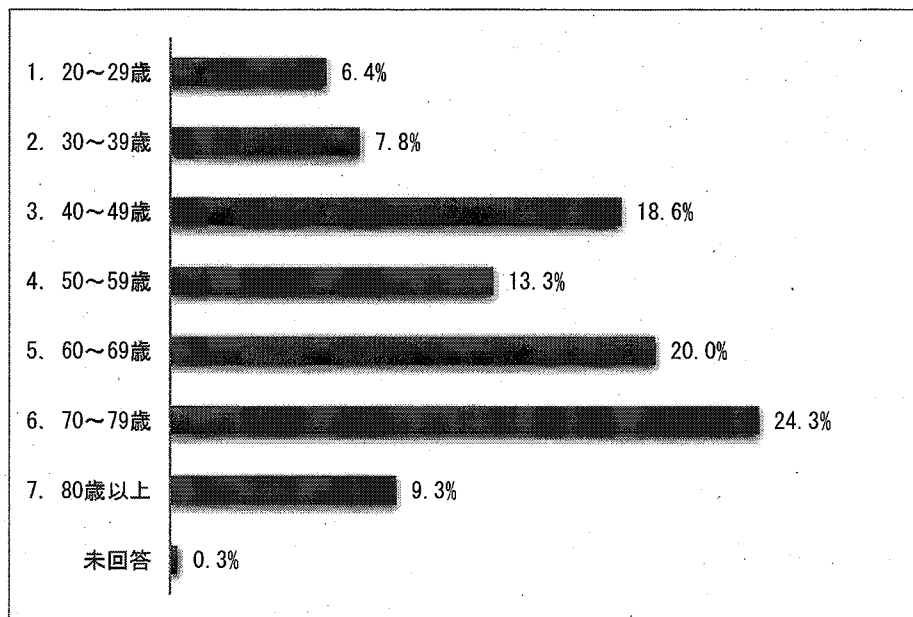
①回答件数：345件

②回答率：34.5%

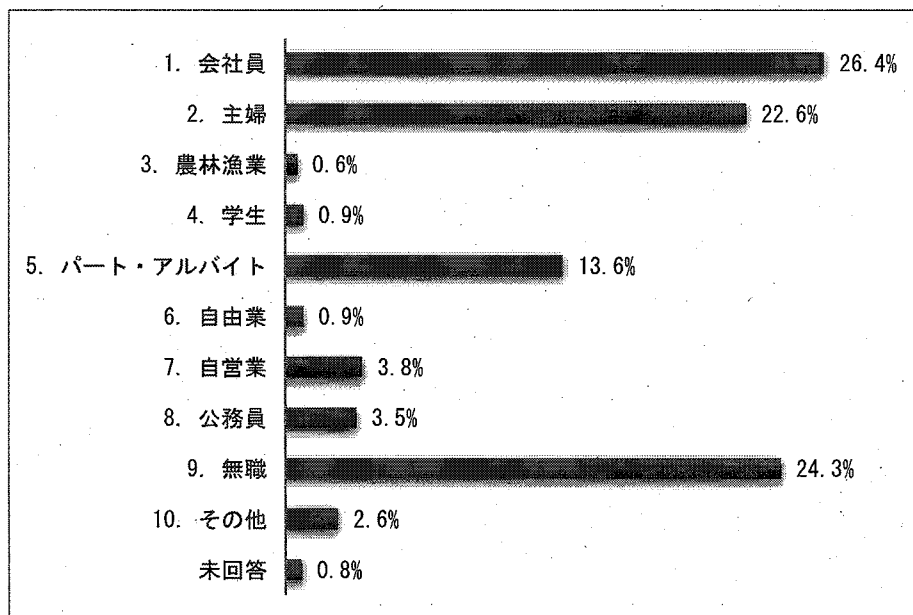
③性別



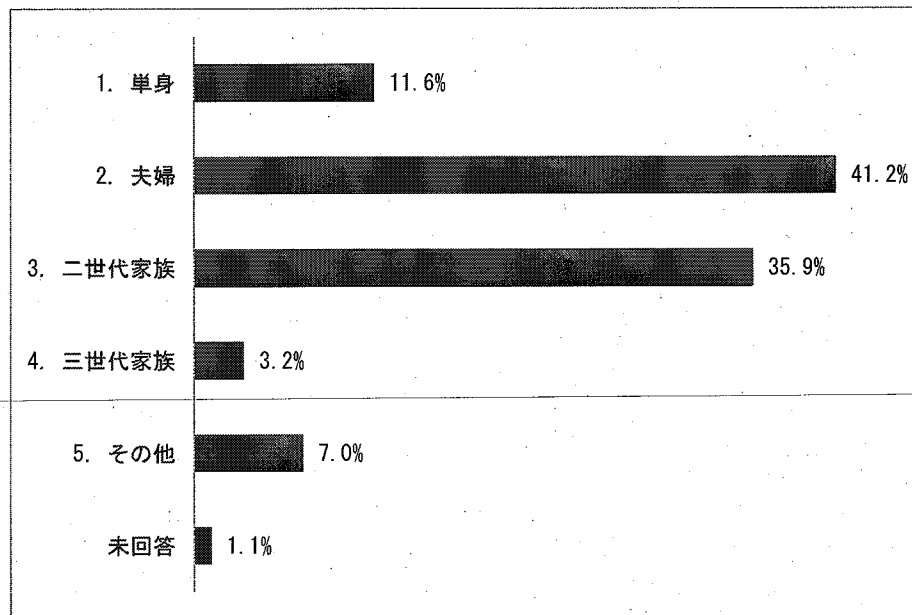
④年齢



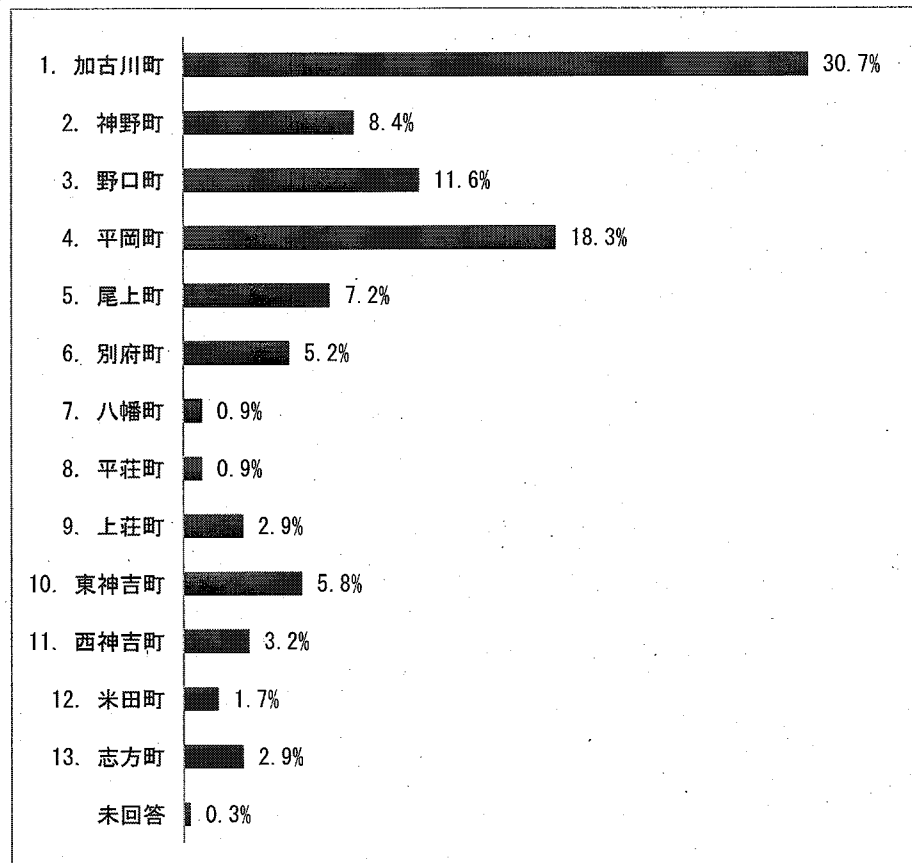
⑤職業



⑥家族構成



⑦居住地



3 集計結果と中間評価報告

第3章 基本理念・基本方針・施策

第3節 施策体系

1 スポーツ参画人口の拡大

(1) 子どもの体力向上とスポーツ活動の推進

◆子どものスポーツ実施率（スポーツを週3日以上している小学生の割合（※））

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
57.0%	62.6%	68.0%以上

◆子どものスポーツ実施率（スポーツを週3日以上している中学生の割合（※））

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
74.0%	75.5%	82.0%以上

※ 計画策定時の値は、「食」と「健康」に関するアンケート調査（平成29年度）より

※ 中間値は、「食」と「健康」に関するアンケート調査（令和5年度）より

◆子どもの昭和60年頃（1985年）の体力水準

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
64.3%	50.0%	100.0%以上

※「加古川市児童生徒の体力・運動能力の現状と目標値との比較」の達成率90%以上の割合

(2) ライフステージに応じたスポーツの推進

※スポーツ推進計画「16ページ」、市民調査「問5」に該当

◆週1日以上スポーツを行う成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
48.2%	53.3%	65.0%以上

《市民調査の結果》

「週1日以上スポーツを行う成人の割合」は、53.3%であり、計画策定時から5.1ポイント増加しています。年代別に見ると、50代以上で「週1回以上実施している」方は、2人に1人以上という結果となりました。

ポイントが増加した要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響があった中で、散歩やウォーキング、ランニングなど、自分のライフスタイルにあわせて気軽にスポーツに取り組んだ人が多いことが考えられます。

しかしながら、目標値までは、11.7ポイント増加させる必要があります。

◆週3日以上スポーツを行う成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
27.4%	31.7%	30.0%以上

《市民調査の結果》

「週3日以上運動・スポーツを行う成人の割合」は、31.7%であり、計画策定時から4.3ポイント増加しており、目標値である30.0%を達成しています。年代別に見ると、60代以上の方で「週3回以上実施している」方は、3人に1人以上という結果となりました。

目標値を達成した要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響があった中で、散歩やウォーキングのほか、ヨガやピラティスといった自宅内においても実施可能な運動に取り組んだ人が多いことが考えられます。また、活動場所については、週3日以上スポーツを行う方は、週1日以上スポーツを行う方と比較すると、「自宅(室内、庭)」や「地域の公園、空き地」の割合がやや高くなっています。

(3) スポーツに関心のない人へのはたらきかけ

※スポーツ推進計画「18ページ」、市民調査「問5」に該当

◆1年間まったくスポーツを行っていない成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
25.9%	24.2%	20.0%以下

《市民調査の結果》

「1年間まったくスポーツを行っていない成人の割合」は、24.2%であり、計画策定時から1.7ポイント減少しています。年代別に見ると、30代と80代以上の方で「1年間まったくスポーツを行っていない」方は、概ね3人に1人という結果となりました。

ポイントが減少した要因としては、新型コロナウイルスの影響により、リモートワークが増加したこと等、働き方の変化や健康に対する関心の高まりなどにより、スポーツに取り組む機会が増加したことが考えられます。

(4) 競技スポーツの推進

◆競技団体が主催する市内スポーツ大会への参加者数

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
3,308 チーム 22,251 名 (※1)	2,579 チーム 16,457 名 (※2)	3,600 チーム 25,000 名以上

※1 計画策定時の値は、加古川市スポーツ協会(平成28年度)資料より

※2 中間値は、加古川市スポーツ協会(令和5年度)資料より

【総括】

子どものスポーツ実施率は、計画策定時から増加傾向にありますが、一方、昭和 60 年頃の体力水準との比較については、低下傾向にあります。

また、市民調査の結果では、スポーツを行う成人の割合も増加傾向にあり、その中で、実施率の高い運動・スポーツの種目は、「散歩、ウォーキング」、「ジョギング、ランニング」、「ヨガ、ピラティス」、「水泳」等、1人で出来る種目でした。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、自分のライフスタイルに合わせて気軽に取り組めるスポーツが注目を浴びたと考えられます。実施状況については、若年層（20 代）では、1年間全く実施していない方はどの年代よりも少なくなっており、月 1 日から年 1 日程度実施する方が最も多い結果となっています。中・高年層（30 代以上）については、週 1 日以上実施する方の割合は多いものの、まったく行っていない方も多く、二極化している状態です。

この結果から、若年層には、スポーツの実施頻度を高める働きかけ、中年層以上についてはスポーツを始めるきっかけ作りが必要です。

スポーツ参画人口の拡大については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに運動・スポーツを始めた成人が新しい生活スタイルに合わせて今後も継続して実施できるよう、個人競技を推進するとともに集団での活動の増加を目指す取組が求められます。

【目標値に向けた取り組み】

- ①「月に 1～3 日」、「3 ヶ月に 1～2 日」、「年に 1～3 日」等、スポーツを行う頻度が週 1 日に満たない人（43%）に対する実施頻度の向上に向けた取組の検討。
- ②「全く行っていない成人」（24.2%）に対する、気軽に参加できるスポーツ等の体験会や市内各地で実施されるスポーツ企画等、様々な活動や活動施設の広報活動の充実。
- ③「週 3 日以上運動・スポーツを行う成人の割合」の増加に向け、日々の成果等を発揮できる機会の提供や集団で運動する企画等の広報活動の充実。
- ④スポーツ関係団体と連携、協力し、市民がスポーツを実施するきっかけ作りの検討。

2 スポーツを通じた共生社会の実現

（1）障がい者スポーツの振興

◆障がい者（成人）の週 1 回以上のスポーツ実施率

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
19.2% (※1)	31.0% (※2)	25.0%以上

※1 計画策定時の値は、第 2 期スポーツ基本計画（国）より

※2 中間値は、第 3 期スポーツ基本計画（国）より

◆障がい者スポーツイベント数

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
5 回 (※ 1)	9 回 (※ 2)	8 回以上

※ 1 計画策定時の値は、ふれあいスポーツ教室実施回数

※ 2 中間値は、ふれあいスポーツ教室のほか、
スポーツ・文化課所管イベント実施回数

(2) 健康・体力づくりの推進

※スポーツ推進計画「26 ページ」、市民調査「問1」に該当

◆健康であると感じる成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
66.8%	62.6%	75.0%以上

《市民調査の結果》

「健康であると感じる成人の割合」は、62.6%であり、計画策定時から 4.2 ポイント減少しています。その要因としては、運動・スポーツに取り組む人は増えているものの、新型コロナウイルスの影響により健康に不安を感じる人が増えているものと考えられます。目標値までは、12.4 ポイント増加させる必要があります。

(3) スポーツを通じた地域活性化

◆スポーツ・レクリエーション活動機会の提供に関して満足している成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
61.4% (※ 1)	53.1% (※ 2)	70.0%以上

※ 1 計画策定時の値は、加古川市まちづくりの指標一覧（平成28年度）より

※ 2 中間値は、加古川市まちづくりの指標一覧（令和4年度）より

【総括】

「障がい者のスポーツ実施率」が目標値を達成している要因としては、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にパラスポーツ（障がい者スポーツ）への関心が高まり、イベントの実施回数が増加したことが考えられます。しかしながら、現状のイベントはその場限りの取組となっており、継続して実施する機会の確保が課題です。

一方で、「健康であると感じる成人の割合」や「スポーツ・レクリエーション活動機会の提供に関して満足している成人の割合」が減少した要因としては、新型コロナウイルス感染拡大による外出抑制や相次ぐイベント中止等、社会状況の変化の影響が未だに残っているものと考えられます。今後は、市民自らが主体的に健康増進に向けて運動やスポーツに取り組める土台作りが求められます。

【目標値に向けた取り組み】

- ①障がい者スポーツを継続して実施できる機会の提供や活動団体の周知
- ②景観等を楽しみつつ、「散歩、ウォーキング」、「ジョギング、ランニング」等、軽微な運動を気軽に行える場所の広報活動の充実
- ③運動・スポーツを始めるきっかけづくりに向けたイベント等の広報活動の充実。

3 スポーツ環境の充実

（１）身近に利用できる「場所」の確保

※スポーツ推進計画「30 ページ」、市民調査「問 6」に該当

◆スポーツを行う施設や場所で成人の 10%以上が利用する施設や場所の数

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
4 箇所	4 箇所	6 箇所以上

《市民調査の結果》

「スポーツを行う施設や場所で成人の 10%以上が利用する施設や場所の数」は、4 箇所であり、計画策定時から増減はありません。市民調査の結果では、「自宅周辺」、「自宅（室内、庭）」、「地域の公園・空き地」、「加古川河川敷」の利用割合が高い状況となっています。また、「ウォーキングコース（8.7%）」、「ゴルフ場（練習場（7.0%）」、「ゴルフ場（コース（6.4%）」、「民間フィットネスクラブ、トレーニングジム（5.5%）」が、次いで利用割合の高い場所となっています。目標値までは、2 箇所増加させる必要があります。

(2) 観戦スポーツの推進

※スポーツ推進計画「32 ページ」、市民調査「問 15」に該当

◆試合会場等へ赴きスポーツを観戦したことがある成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
28.4%	30.4%	33.0%以上

《市民調査の結果》

「試合会場等へ赴きスポーツを観戦したことがある成人の割合」は、30.4%であり、計画策定時から 2.0 ポイント増加しています。

ポイントが増加した要因としては、市内のスポーツ施設において、バスケットボールやバレーボールのプロチームの試合を開催しており、いずれの種目も観客数が 2,000 人を超える状況であることから、プロスポーツを会場で観戦する意識が一定程度浸透しているものと考えられます。

しかしながら、目標値までは 2.6 ポイント増加させる必要があります。

(3) スポーツボランティアや指導者の発掘と養成

※スポーツ推進計画「34 ページ」、市民調査「問 17」に該当

◆スポーツボランティア活動を行う成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
7.6%	4.2%	10.0%以上

《市民調査の結果》

「スポーツボランティア活動を行う成人の割合」は、4.2%であり、計画策定時から 3.4 ポイント減少しています。

ポイントが減少した要因としては、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の終了や、その後の新型コロナウイルスによるイベントの中止の影響から、参加機会の減少に加え、市民のボランティアに対する参加意識が低下していることが考えられます。目標値までは、5.8 ポイント増加させる必要があります。

(4) スポーツについての情報発信

※スポーツ推進計画「36 ページ」、市民調査「問 9」に該当

◆市内のスポーツイベントを知っている成人の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
55.8%	52.2%	75.0%以上

※認知度の高い上位 5 件それぞれの回答件数を、総回答件数 (345 件) から無回答 (24 件) を引いた件数 (321 件) で除した平均値。

《市民調査の結果》

「市内のスポーツイベントを知っている成人の割合」は、52.2%であり、計画策定時から3.6ポイント減少しています。

ポイントが減少した要因としては、新型コロナウイルスの影響により、様々なスポーツイベントが数年に渡って延期や中止となったことに加え、再開後も参加者数の上限設定を行う等、広く市民の参加が制限されたことが考えられます。目標値までは、22.8ポイント増加させる必要があります。

(5) 総合型地域スポーツクラブの充実

※スポーツ推進計画「38 ページ」、市民調査「問 22」に該当

◆NPO 法人加古川総合スポーツクラブに加入している市民の割合

H28 調査 (計画策定時)	R5 調査 (中間)	R9 (目標値)
1.9%	1.6%	5.0%以上

《市民調査の結果》

「NPO 法人加古川総合スポーツクラブに加入している市民の割合」は、1.6%であり、計画策定時から0.3ポイント減少しています。近年はスポーツクラブ加入者の減少や会員の高齢化等により活動困難となり、休会するクラブが増加していること、新型コロナウイルスによるクラブ活動の制限などが要因であると考えられます。目標値までは、3.4ポイント増加させる必要があります。

【総括】

「身近に利用できる『場所』の確保」や「観戦スポーツの推進」については、現状維持または指標の向上を図ることができたものの、「スポーツボランティアや指導者の発掘と養成」をはじめとした他の施策は指標が悪化しており、新型コロナウイルスの影響から脱却できていない現状があります。市民だれもが、様々なかたちで一生涯にわたりスポーツに親しめる環境づくりが求められます。

【目標値に向けた取組】

- ①公共施設の利用促進に向けた広報活動の充実
- ②スポーツボランティアの活躍機会の創出やボランティアの増加に向けた情報発信
- ③市の広報紙やホームページ、公式SNSなどあらゆる媒体を活用したスポーツイベントの積極的な広報の実施
- ④NPO法人加古川総合スポーツクラブと連携した、クラブ活動に関する広報の実施

第4章 計画の実現に向けて

加古川市スポーツ推進計画の中間評価の内容を踏まえ、本計画の実現に向けた後期の取組として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に高まった市民のスポーツへの関心やこれまで推進してきたスポーツ関連事業等を継承、発展、充実させるため、本市における全庁的な推進を図るとともに、スポーツ関係団体や学校等と連携・協働することで、スポーツ参画人口のさらなる拡大を図ります。

また、市民がスポーツを通じて、「生涯にわたり、心身ともに健康で文化的な生活」を営むことができるよう、スポーツに対する市民の関心と理解の深化に向けた取組を強化するとともに、豊かなスポーツライフを育む環境作りを推進します。
